

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	日本文学科学生有志による、板橋キャンパス地域の子供とのスポーツ交流指導、教育学科の「寺子屋」や、書道学科の埼玉県を中心とする「義務教育文字文化推進事業」を展開することで地域の小・中学校への還元を行っている。また、文学部特別講義に、学内関係者のみならず、地域の方々の参加も認めている。(ただし、人数調整の困難な場合もある)
8-3	検証をおこなっているが、今後の取り組みについて、検討を重ねて行く必要がある。 検証は各学科および文学部教授会が行う。

【効果が上がっている事項】

8-2	教職を目指す学生にとっては有益な方法である。
8-3	各学科会議、教務委員会、学部教授会等で報告され、問題意識を上げている。

【改善すべき事項】

8-2	学生の講義とのバランスを考慮する必要がある。また、更なる取り組みが望まれる。
8-3	学科によっては、これからの課題として、意識を高めていきたい。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

文学部特別講義パンフレット

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	どのような社会連携・地域連携が可能か、協議していく。良い案が得られたら、実施に向けての対応を考える。	他大学の取り組みや、本学他学部の取り組み等の実例。	→					
14 年度 目標	どのような社会連携・地域連携が可能か、協議していく。	各学科協議会、学部教授会において意見を集約し可能性を一つでも探る。	→					